

ノーベル賞の大村氏 小谷家保存にも貢献

ゆかりの館山からも喜びの声



昨年8月のオマージュ展に館山を訪れた大村氏＝館山コミセン

今年のノーベル医学・生理学賞に輝いた大村智氏は、美術を愛する科学者としても知られる。洋画家・青木繁が「海の幸」を描いた館山市布良の小谷家住宅の保存を目指す「NPO法人青木繁あがった」。

「賞の候補になっていたことは知っていたが、テレビのニュース速報を見てびっくり。夫婦で『やったー』と喜びあつた。小谷家保存の応援団長で、当主にとっても大変な名譽。本當にうれい」。現小谷家当主の小谷福哲さん(64)は喜ぶ。大村氏は、私財を投じて美術館を開設するなど美術への造詣が深く、美術関係者によって立ち上げられた同NPOの理事長に平成21年に就任、小谷家の保存にも力を尽くしている。

「温厚で思いやりがある方。小谷家住宅保存の旗振り役で、テレビで『人のためになることを』と紹介されていたが、まさにその通りの人物」とたたえる。館山には数回訪れており、25年には保存に向けて300万円を市にふるさと納税で寄付。昨年8月にはオマージュ展と修復が進む小谷家を視察している。その際、小谷家を案内した地元保存会事務局の愛沢伸雄さん(63)は『(保存に向けた)お金を集める呼び掛けはするので、地元で保存活動を頑張ってほしい』と声を掛けていただいた。地域

の文化財を守り、活用する取り組みを応援してもらいうれしかった。」「気さくでフランクな方。有名な先生とは知っていたが、ノーベル賞とは驚きました。心から祝意を伝えたい」と祝福する。小谷家は今年度末に修復を終え、来年4月に公開予定。「オープンの日は大村先生に館山に来てもらいたい」。実は愛沢さんは昨年夏の段階で大村氏に打診。予定が空いていた4月24日をオープン日に決め、大村氏の手帳に直接書き込んでもらっている。

「ノーベル賞受賞で忙しくなってしまうと思うが、ぜひ館山に来てもらい一緒にオープンを祝ってほしい」と期待していた。館山市長も祝電
今回のノーベル賞受賞決定を受け館山市の金丸謙一市長は6日、大村智氏に祝電を送った。大村氏は平成23年5月に市長を表敬訪問している。祝電では「誠にめでとございませう」と祝意と功績への敬意を表し、「受賞の報に接し『小谷家住宅』を市民の誇りとすることを強く心に誓った」などと述べた。